

出石町史

第四卷

資料編Ⅱ



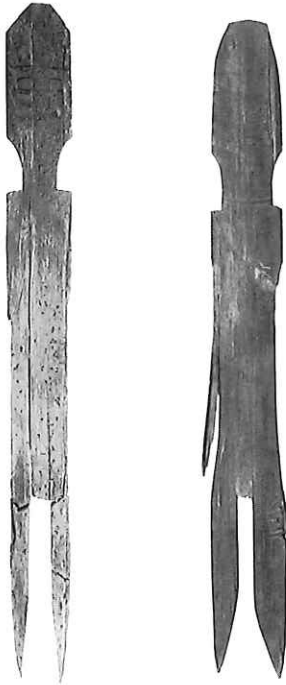
雪天に映える辰鼓櫓



銅印



銅印印面



人形

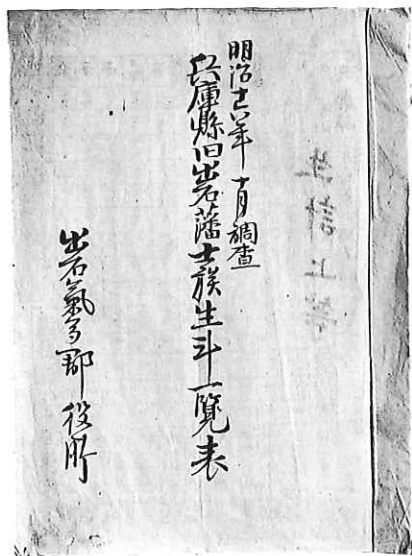


木簡

2 袴狭遺跡の出土遺物



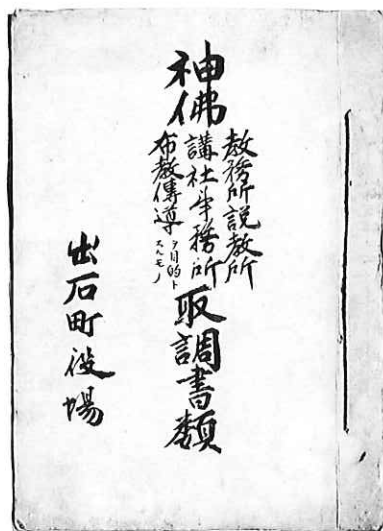
3 多田弥太郎上書・出訴一件



4 旧出石藩士族生計一覽表 (明治16年)



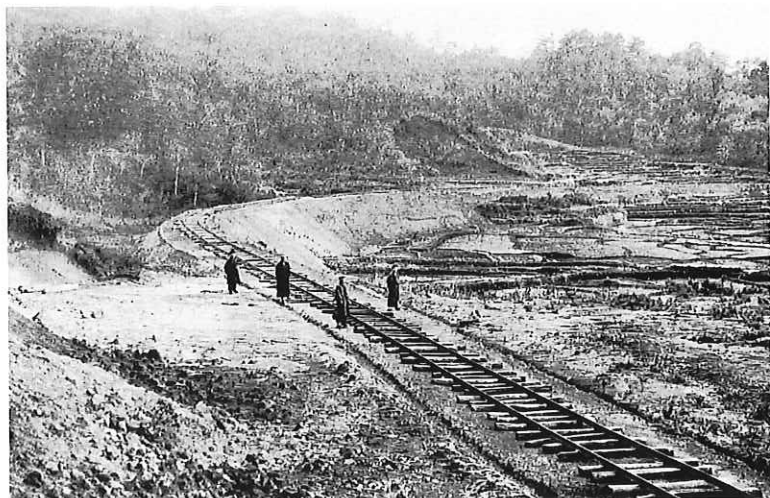
5 寺院・神社明細帳



6 神仏 教務所説教所 講社事務所 布教伝導 取調書類



7 出石鉄道株式会社株券 齋藤義規氏蔵



8 開通間近の出石鉄道狭間坂付近



9 菅川を渡る出石行の列車 22号+ワ101+ガ2 (1939年〔昭和14〕)
谷川義春氏撮影(安保彰夫氏提供)



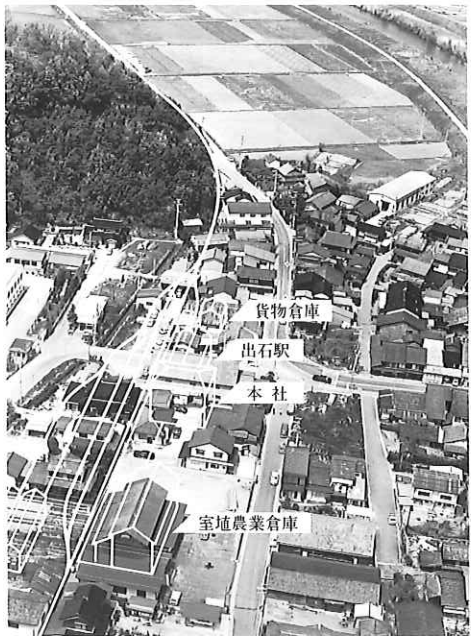
10 今に残る菅川橋台

昭和十九年九月二十日改正

發行時刻表

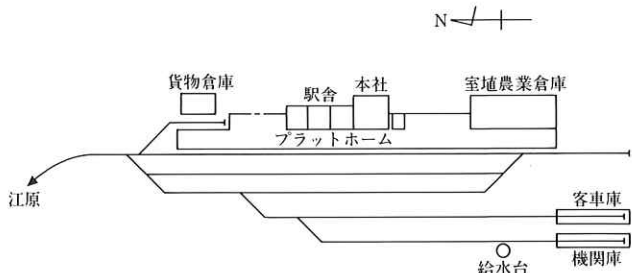
上り		下り	
三八〇	三六〇	一九〇	二六〇
三九〇	三七〇	二〇〇	二七〇
四〇〇	三八〇	二一〇	二八〇
四一〇	三九〇	二二〇	二九〇
四二〇	四〇〇	二三〇	三〇〇
四三〇	四一〇	二四〇	三一〇
四四〇	四二〇	二五〇	三二〇
四五〇	四三〇	二六〇	三三〇
四六〇	四四〇	二七〇	三四〇
四七〇	四五〇	二八〇	三五〇
四八〇	四六〇	二九〇	三六〇
四九〇	四七〇	三〇〇	三七〇
五〇〇	四八〇	三一〇	三八〇
五一〇	四九〇	三二〇	三九〇
五二〇	五〇〇	三三〇	四〇〇
五三〇	五一〇	三四〇	四一〇
五四〇	五二〇	三五〇	四二〇
五五〇	五三〇	三六〇	四三〇
五六〇	五四〇	三七〇	四四〇
五七〇	五五〇	三八〇	四五〇
五八〇	五六〇	三九〇	四六〇
五九〇	五七〇	四〇〇	四七〇
六〇〇	五八〇	四一〇	四八〇
六一〇	五九〇	四二〇	四九〇
六二〇	六〇〇	四三〇	五〇〇
六三〇	六一〇	四四〇	五一〇
六四〇	六二〇	四五〇	五二〇
六五〇	六三〇	四六〇	五三〇
六六〇	六四〇	四七〇	五四〇
六七〇	六五〇	四八〇	五五〇
六八〇	六六〇	四九〇	五六〇
六九〇	六七〇	五〇〇	五七〇
七〇〇	六八〇	五一〇	五八〇
七一〇	六九〇	五二〇	五九〇
七二〇	七〇〇	五三〇	六〇〇
七三〇	七一〇	五四〇	六一〇
七四〇	七二〇	五五〇	六二〇
七五〇	七三〇	五六〇	六三〇
七六〇	七四〇	五七〇	六四〇
七七〇	七五〇	五八〇	六五〇
七八〇	七六〇	五九〇	六六〇
七九〇	七七〇	六〇〇	六七〇
八〇〇	七八〇	六一〇	六八〇
八一〇	七九〇	六二〇	六九〇
八二〇	八〇〇	六三〇	七〇〇
八三〇	八一〇	六四〇	七一〇
八四〇	八二〇	六五〇	七二〇
八五〇	八三〇	六六〇	七三〇
八六〇	八四〇	六七〇	七四〇
八七〇	八五〇	六八〇	七五〇
八八〇	八六〇	六九〇	七六〇
八九〇	八七〇	七〇〇	七七〇
九〇〇	八八〇	七一〇	七八〇
九一〇	八九〇	七二〇	七九〇
九二〇	九〇〇	七三〇	八〇〇
九三〇	九一〇	七四〇	八一〇
九四〇	九二〇	七五〇	八二〇
九五〇	九三〇	七六〇	八三〇
九六〇	九四〇	七七〇	八四〇
九七〇	九五〇	七八〇	八五〇
九八〇	九六〇	七九〇	八六〇
九九〇	九七〇	八〇〇	八七〇
一〇〇〇	九八〇	八一〇	八八〇
一〇一〇	九九〇	八二〇	八九〇
一〇二〇	一〇〇〇	八三〇	九〇〇
一〇三〇	一〇一〇	八四〇	九一〇
一〇四〇	一〇二〇	八五〇	九二〇
一〇五〇	一〇三〇	八六〇	九三〇
一〇六〇	一〇四〇	八七〇	九四〇
一〇七〇	一〇五〇	八八〇	九五〇
一〇八〇	一〇六〇	八九〇	九六〇
一〇九〇	一〇七〇	九〇〇	九七〇
一一〇〇	一〇八〇	九一〇	九八〇
一一一〇	一〇九〇	九二〇	九九〇
一一二〇	一一〇〇	九三〇	一〇〇〇
一一三〇	一一一〇	九四〇	一〇一〇
一一四〇	一一二〇	九五〇	一〇二〇
一一五〇	一一三〇	九六〇	一〇三〇
一一六〇	一一四〇	九七〇	一〇四〇
一一七〇	一一五〇	九八〇	一〇五〇
一一八〇	一一六〇	九九〇	一〇六〇
一一九〇	一一七〇	一〇〇〇	一〇七〇
一二〇〇	一一八〇	一〇一〇	一〇八〇
一二一〇	一一九〇	一〇二〇	一〇九〇
一二二〇	一二〇〇	一〇三〇	一〇一〇
一二三〇	一二一〇	一〇四〇	一〇二〇
一二四〇	一二二〇	一〇五〇	一〇三〇
一二五〇	一二三〇	一〇六〇	一〇四〇
一二六〇	一二四〇	一〇七〇	一〇五〇
一二七〇	一二五〇	一〇八〇	一〇六〇
一二八〇	一二六〇	一〇九〇	一〇七〇
一二九〇	一二七〇	一〇一〇	一〇八〇
一三〇〇	一二八〇	一〇二〇	一〇九〇
一三一〇	一二九〇	一〇三〇	一一〇〇
一三二〇	一三〇〇	一〇四〇	一一一〇
一三三〇	一三一〇	一〇五〇	一一二〇
一三四〇	一三二〇	一〇六〇	一一三〇
一三五〇	一三三〇	一〇七〇	一一四〇
一三六〇	一三四〇	一〇八〇	一一五〇
一三七〇	一三五〇	一〇九〇	一一六〇
一三八〇	一三六〇	一〇一〇	一一七〇
一三九〇	一三七〇	一〇二〇	一一八〇
一四〇〇	一三八〇	一〇三〇	一一九〇
一四一〇	一三九〇	一〇四〇	一二〇〇
一四二〇	一四〇〇	一〇五〇	一二一〇
一四三〇	一四一〇	一〇六〇	一二二〇
一四四〇	一四二〇	一〇七〇	一二三〇
一四五〇	一四三〇	一〇八〇	一二四〇
一四六〇	一四四〇	一〇九〇	一二五〇
一四七〇	一四五〇	一〇一〇	一二六〇
一四八〇	一四六〇	一〇二〇	一二七〇
一四九〇	一四七〇	一〇三〇	一二八〇
一五〇〇	一四八〇	一〇四〇	一二九〇
一五一〇	一四九〇	一〇五〇	一三〇〇
一五二〇	一五〇〇	一〇六〇	一三一〇
一五三〇	一五一〇	一〇七〇	一三二〇
一五四〇	一五二〇	一〇八〇	一三三〇
一五五〇	一五三〇	一〇九〇	一三四〇
一五六〇	一五四〇	一〇一〇	一三五〇
一五七〇	一五五〇	一〇二〇	一三六〇
一五八〇	一五六〇	一〇三〇	一三七〇
一五九〇	一五七〇	一〇四〇	一三八〇
一六〇〇	一五八〇	一〇五〇	一三九〇
一六一〇	一五九〇	一〇六〇	一四〇〇
一六二〇	一六〇〇	一〇七〇	一四一〇
一六三〇	一六一〇	一〇八〇	一四二〇
一六四〇	一六二〇	一〇九〇	一四三〇
一六五〇	一六三〇	一〇一〇	一四四〇
一六六〇	一六四〇	一〇二〇	一四五〇
一六七〇	一六五〇	一〇三〇	一四六〇
一六八〇	一六六〇	一〇四〇	一四七〇
一六九〇	一六七〇	一〇五〇	一四八〇
一七〇〇	一六八〇	一〇六〇	一四九〇
一七一〇	一六九〇	一〇七〇	一五〇〇
一七二〇	一七〇〇	一〇八〇	一五一〇
一七三〇	一七一〇	一〇九〇	一五二〇
一七四〇	一七二〇	一〇一〇	一五三〇
一七五〇	一七三〇	一〇二〇	一五四〇
一七六〇	一七四〇	一〇三〇	一五五〇
一七七〇	一七五〇	一〇四〇	一五六〇
一七八〇	一七六〇	一〇五〇	一五七〇
一七九〇	一七七〇	一〇六〇	一五八〇
一八〇〇	一七八〇	一〇七〇	一五九〇
一八一〇	一七九〇	一〇八〇	一六〇〇
一八二〇	一八〇〇	一〇九〇	一六一〇
一八三〇	一八一〇	一〇一〇	一六二〇
一八四〇	一八二〇	一〇二〇	一六三〇
一八五〇	一八三〇	一〇三〇	一六四〇
一八六〇	一八四〇	一〇四〇	一六五〇
一八七〇	一八五〇	一〇五〇	一六六〇
一八八〇	一八六〇	一〇六〇	一六七〇
一八九〇	一八七〇	一〇七〇	一六八〇
一九〇〇	一八八〇	一〇八〇	一六九〇
一九一〇	一八九〇	一〇九〇	一七〇〇
一九二〇	一九〇〇	一〇一〇	一七一〇
一九三〇	一九一〇	一〇二〇	一七二〇
一九四〇	一九二〇	一〇三〇	一七三〇
一九五〇	一九三〇	一〇四〇	一七四〇
一九六〇	一九四〇	一〇五〇	一七五〇
一九七〇	一九五〇	一〇六〇	一七六〇
一九八〇	一九六〇	一〇七〇	一七七〇
一九九〇	一九七〇	一〇八〇	一七八〇
二〇〇〇	一九八〇	一〇九〇	一七九〇

出石鐵道株式會社



11 出石駅跡 安保彰夫氏撮影・提供

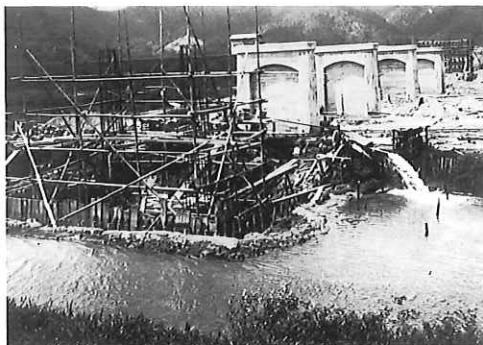
12 出石鉄道代替バス時刻表
(1944年[昭和19]鉄道撤収後)
齋藤義規氏蔵



13 出石駅見取図 (1938年[昭和13]当時)



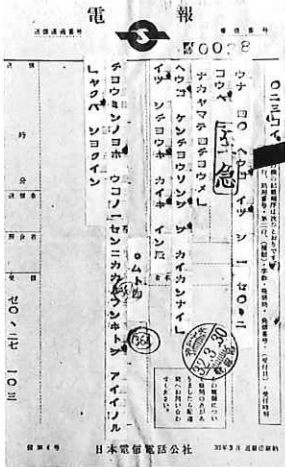
20 堀川橋架け替え工事
(1937年〔昭和12〕11月6日
渡り初め式を挙げる)



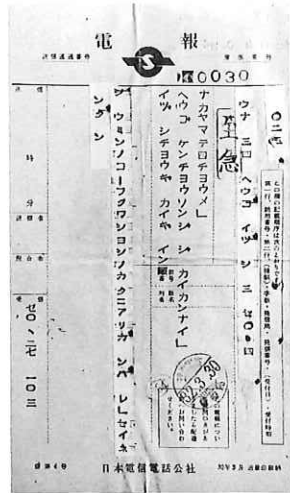
21 伊豆橋架け替え工事



22 伊豆橋竣工渡り初め (1942年〔昭和17〕6月28日)



出石町役場職員が
出石町議会議員に宛てたもの



出石町青年団が
出石町議会議員に宛てたもの



出石町婦人会が
出石町議会議員に宛てたもの



24 町村合併推進ポスター



25 新出石町の誕生を祝う人文字
 (1957年〔昭和32〕11月14日合併祝賀式挙行当日 出石中学校グラウンドにて)

序

新町発足二十周年記念事業として、昭和五十二年以来取り組みを進めてまいりました出石町史編纂事業も、この度第四卷(資料編Ⅱ)の発刊をもって出石町史全四卷完結の運びとなりました。

顧みますと十五年余の歳月を要し、ここに漸くその大成をみたわけでありませんが、通史編二卷・資料編二卷の計四卷からなる出石町史は、通史編にあっては正確な史実をできるだけ平易な記述で読み物風に編集するよう心掛けることによって、郷土史への興味と関心をお示しいただき、また資料編については通史編に関連した資料の中から特に信憑性に富んだものを精選し、収録した資料をもとに史実をより客観的にとらまえ、郷土史を核とした歴史へのご考察を一層深めていただくことをねらいに編集してまいりました。

そして、願わくば私たちみんなの歴史書として町史全四卷をご愛読賜わり、その中に集約された有形・無形あるいは教訓となって生き続ける貴重な遺産をご感得いただくと共に、相互に共有し得る財産であることをご確認願ひ、ひいては郷土を愛し慈しむ心の醸成へと発展継承されんことを切望してやみ

ません。

時は平成を迎え、伝統文化を生かした心ふれあう豊かな町づくりを希求する我が町にとって、迫り来る二十一世紀へ繋ぐ確かな礎があってはじめて子孫孫にわたり、その体現を保障するものであることは言うまでもありません。

今、本書をして甦る歴史、すなわち人間の様々な営みの証として脈打つ史的事実・史的教訓こそが礎構築に大いなる示唆をもって応えてくれるものと確信いたします。

おわりになりましたが、町史刊行に際し執筆・編集に携わっていただいた先生方をはじめ、関係各位並びに貴重な資料を提供くださった方々に厚くお礼申し上げます。

平成五年三月

出石町長

針田賢一

凡 例

一、本書は『出石町史』資料編Ⅱで、全四巻のうち最終巻にあたり、第二巻の通史編下関連の幕末維新から現代に至る資(史)料を収めている。

一、本書では、史料を幕末維新及び近現代の二編に大別すると共に、付録更には近年新たに発掘された主要遺跡の概要を、考古学資料として補遺に収めている。

一、取り扱う史料の性格上、幕末維新、近現代の文献史料及び付録は縦組みに、補遺の考古学資料は巻末より横組みにして収めている。

一、幕末維新編では、『御用部屋日記』及び『東門日乗』を中心に収めている。近現代編では、第二巻の時代及び分野区分に準じながら、時代推移を基調に史料を掲げた。但し、『出石焼』・「第五十五国立銀行」・「出石鉄道」関係史料については、時代区分ごとの扱いを避け、それぞれ当該項目別に推移・消長を収載した。また、地租改正関係史料は、既に近隣市・町史に収録された史料の外新たに収録すべき史料がなかったため、これを省略した。

一、使用字体は、原則として常用漢字を、それ以外は正字を用いたが、一部原本の用字を尊

重して常用漢字に改めなかったものもある。

一、各史料には文書名をつけ、幕末維新編、近現代編、付録、補遺別に通し番号をつけた。

背文字および扉文字は出石町長升田賢一筆。

出石町史 第四卷 資料編Ⅱ 目次

幕末維新編

一 東門日乗・・・・・・・・・・・・・・・・二

1 弘道館講師、藩政関与の時代・・・・・・・・二

2 隠居生活の日々、藩政からは疎外・・・・・・・・三六

3 仙石騒動発覚、弘道館講師縮役に復帰・・・・・・・・五

4 晩年の暗転、再び浮上した老大先生・・・・・・・・八

二 御用部屋日記・・・・・・・・二〇九

1 減知後の藩体制立て直し・・・・・・・・二〇九

2 再び幕府の鉄槌・・・・・・・・一六三

3 多田弥太郎上訴事件と文久の政変・・・・・・・・二〇八

4 幕末期、揺れる出石藩政・・・・・・・・二六六

5	御一新後の出石藩政	三〇四
	三 村方文書	三三四

近現代編

	一 近代社会への歩み	三三八
1	廃藩置県と出石県の発足	三三八
2	出石県の廃止と豊岡県の発足	三三三
3	市校の消長	三三七
4	明治初期の地方制度	三四一
5	旧士族の転職と生計	三四七
6	第五十五国立銀行関係資料	三八三
	二 明治後期の出石	四三七
1	地方自治制度の確立と立憲政治の進展	四三七
2	日清・日露の両戦役	四三八
3	農業の発展と農村の暮らし	四六二

4	社会の諸相	四七六
三	大正期の出石	五〇一
1	社会生活の近代化と地域発展への夢	五〇一
2	出石鉄道関係資料	五〇九
四	近代出石の文化	五三五
1	出石の神仏	五三五
2	出石の鶴山	五七六
3	出石焼関係資料	五八一
4	出石教学関係碑文	五九八
五	昭和前期の出石	六〇三
1	農業恐慌と農村の経済更生	六〇三
2	戦時統制下の暮らし	六四五
六	戦後の出石	六六七
1	戦後の民主化	六六七
2	町村合併と新出石町の誕生	六九一

目次

付録	七二
補遺(考古編)	一
編集後記	(卷末)

細目次

幕末維新編

一 東門日乗

1 弘道館講師、藩政関与の時代

(1) 文化十五年(四三歳)	
一 正月十二日 仙石左京、桜井良蔵に自宅出講を頼む	二
二 正月二十四日 良蔵、夜咄の名目で左京宅出講を	
受諾	三
三 正月二十九日 宿南古墳発掘の状況を記す	五
四 三月七日 君公の伴に加わり高城登山	六
五 三月十九日 君公の養父郡巡見に御供	七
六 四月二十一日 仙石左京、桜井良蔵に入門	二
七 四月二十六日 荒木玄蕃、桜井良蔵に入門	三
八 五月二十二日 桜井良蔵、荒木玄蕃宅に招かれ講義	三

九 十一月二十九日 良蔵、仙石左京宅に出向く	三
一〇 十二月二十一日 良蔵、再び玄蕃宅に招かれ講義	三
(2) 文政二年(四四歳)	
二 四月二十六日 仙石造酒助宅に出講	四
三 五月十四日 仙石左京宅に出講	四
三 七月二十五日 左京、約束時間まで良蔵宅門前で	
待つ	五
四 十一月十七日 藩の借金総額は此時点で六万両	五
(3) 文政三年(四五歳)	
五 六月二十日 仙石造酒と共に香住大乗寺を訪れる	六
六 六月二十一日 造酒と共に香住より湯嶋へ船旅	六
七 八月七日 仙石造酒助、勝手方がかり御免	七
八 八月二十日 才覚方新設	七
九 八月二十一日 江戸へ出発する仙石造酒助を見送る	七
一〇 十二月二十八日 息子一太郎の馬廻組編入を喜ぶ	八
三 十二月三十日 門松を二門建てて一太郎の出仕を	
祝う	八
(4) 文政七年(四九歳)	
三 三月十日 病気のため、藩主の参勤出發日延べ	九

細目次

三	三月十一日	購入を断り、馬三十二疋を返す……………	一九
四	三月十六日	仙石政美、参勤の旅に出発……………	一九
五	四月十八日	参勤道中の報、東海道一円癩疹流行……………	二〇
六	五月四日	良藏、西御殿に呼ばれ久道と会谈……………	二〇
七	五月八日	藩主危篤、左京急出府……………	二五
八	五月九日	急出府の酒匂清兵衛へ心付を密々言上……………	二六
九	五月十二日	仙石政美死去の報を伝える飛脚到着……………	二六
一〇	五月十六日	仙石造酒助宅を訪ね、機密国事を熟談……………	二六
一一	五月二十三日	仙石造酒助宅を訪ね、密議国事……………	二六
一二	六月朔日	久道、大奸如忠の出典を尋ねる……………	二六
一三	六月二日	鷹取己白、減扶持……………	二七
一四	八月三日	藩主御幼年にて、年経費三千兩減の由……………	二七
一五	八月六日	造酒の諮問に答える……………	二七
一六	八月二十九日	荒木玄蕃に忠告……………	二八
一七	閏八月三日	造酒に上ゲ米減額を進言……………	二八
一八	閏八月二十一日	造酒と密議国事……………	二八
一九	閏八月二十八日	左京、江戸より帰着……………	二八
二〇	九月十六日	造酒と密議国事……………	二九
二一	九月二十九日	造酒の節儉案文に敵意傍注……………	二九
二二	十月六日	町在に對する節儉案文に敵意傍注……………	二九
二三	十月十日	左京、良藏に確乎不拔の了見を語る……………	三〇
二四	十月二十日	久道、造酒へ御用金・上げ米用捨を……………	三〇

下問……………三〇

2 隠居生活の日々、藩政からは疎外

一	十一月二十八・二十九日	竹野屋五介一件……………	三三
二	十二月三日	荒木玄蕃、勝手方懸り罷免……………	三三
三	十二月九日	藩務職制、文政四年以前の制に還る……………	三三
四	十二月二十一日	竹野屋五介、宿屋商売御免……………	三三
五	十二月二十四日	造酒、極々内密事を良藏に下問……………	三三
六	文政九年『乙未記事』所収(五一歳)	……………	三三
七	九月十七日	磯野源太左衛門逆上、良藏は豊居……………	三四
八	文政十一年(五三歳)	……………	三四
九	二月五日	弘道館改革の模様を聞く……………	三六
一〇	五月二十日	荒木玄蕃の慰問に對し、面会を謝絶……………	三六
一一	六月朔日	御用金上納邪魔の嫌疑をかけられる……………	三六
一二	六月二日	御用金上納に苦しむ領民……………	三六
一三	六月十一日	荒木玄蕃、大借銀のうわさ……………	三六
一四	六月二十七日	荒木玄蕃、年寄役罷免……………	三六
一五	七月二十七日	桜井良藏、豊居御免……………	三六
一六	七月二十九日	大森登来り、豊居御免を喜ぶ……………	三六
一七	八月朔日	乗竹彌の忠告を悦ぶ……………	三六
一八	八月十一日	玄蕃への心添不行届に付、江戸年寄慎……………	三六
一九	十月十二日	宇野甚助来訪……………	三六

(2) 天保三年『乙未記事』所収(五七歳)……………三六

細目次

三	正月十七日	荒木玄蕃ら四重臣、久道へ上書……………	四四
三	正月十八日	左京ら野間へ出向く……………	四四
三	正月二十二日	玄蕃ら四重臣の処分発令……………	四四
	① 石門日曆		
三	正月十六日	仙石主計ら西御殿へ出仕……………	四四
三	正月二十二日	主計・玄蕃らの処分発令……………	四四
三	正月二十三日	桜井一太郎、酒匂清兵衛極密面会……………	四四
三	正月二十七日	一太郎、上書の不首尾を嘆く……………	四四
	(3) 天保四年(五八歳)		
三	八月二十七日	仙石久道発病、半身不随……………	四四
三	九月晦日	年寄青木・山村急出府……………	四四
三	十月二十一日	借銀出入関係者四人帰国、謹慎……………	四四
三	十一月十六日	青木・山村帰国……………	四四
三	十一月二十九日	出作の大蔵領民、出石御用金を嫌う……………	四四

二	正月八日	町方には河野びいきの声……………	五〇
二	正月十三日	左京と路上で面会、殊の外親厚の挨拶……………	五〇
二	正月十六日	仙石主計ら糾問の風説……………	五〇
二	正月十七日	荒木玄蕃ら四重臣、謝罪文提出……………	五〇
二	正月十九日	荒木玄蕃ら糾問の場の模様……………	五〇
二	二月朔日	河野一件についての近隣諸藩の風評……………	五〇
二	二月十七日	河野瀬兵衛、生野御陣屋へ引き渡し……………	五〇
二	二月二十二日	良蔵蟄居一件は良蔵に罪なしとの評……………	五〇
二	四月十五日	瀬兵衛親戚ら、瀬兵衛との義絶を相談……………	五〇
二	七月十九日	宇野甚助宅に甚助を見舞う……………	五〇
二	八月二十一日	仙石左兵衛、役付に復帰……………	五〇
二	八月二十二日	仙石左兵衛来訪、役付を吹聴……………	五〇
二	九月四日	仙石久道逝去……………	五〇
二	九月二十三日	対来閣取り壊し予告を受ける……………	五〇
	3 仙石騒動発覚、弘道館講師締役に復帰		
	(1) 天保六年(六〇歳)		
二	正月十九日	荒木玄蕃らを入れる牢舎造作完了……………	五〇
二	正月二十二日	正啓、山村貞が良蔵を称嘆するを語る……………	五〇
二	正月二十六日	荒木玄蕃ら三重臣入牢……………	五〇
二	正月二十八日	荒木ら入牢の報に井上謙蔵長嘆息……………	五〇
二	正月二十九日	願成寺密堂の警戒の弁を聞く……………	五〇

二〇〇	二月朔日	原敏郎母(市郎右衛門妻)の歌	五
二〇一	六月七日	河野瀨兵衛打首	五
二〇二	六月十三日	河野瀨兵衛辞世の歌	六〇
二〇三	七月十一日	宇野甚助来訪、養生の節を説く	六〇
二〇四	閏七月十五日	仙石主計家、土蔵取り壊し	六〇
二〇五	八月十七日	仙石左京らへ江戸召喚の報届く	六二
二〇六	八月十九日	左京ら出発	六三
二〇七	八月二十一日	仙石左兵衛急出府	六三
二〇八	九月二日	桐野加茂神社主来訪、藩政を気遣う	六三
二〇九	九月六日	美含郡頭庄屋ら、出府嘆願の是非を問う	六三
二一〇	九月八日	一大郎をなだめ出府を思い止まらず	六三
二一一	九月十三日	山田八左衛門ら明日江戸へ出発	六三
二一二	九月十五日	処刑当日の瀨兵衛の言動	六四
二一三	九月二十日	御家に疵は付かぬと領民の評	六五
二一四	九月二十二日	藩吏、領民の出府嘆願を押し止める	六五
二一五	九月二十四日	江戸便着、さらに八人召し出し	六五
二一六	九月二十五日	井上謙蔵、江戸藩邸心痛の状を伝える	六六
二一七	十月三日	松平康任への献金、きびしく穿識	六六
二一八	十月四日	入牢中の左京警固の模様を伝える	六六
二一九	十月六日	左京らの留守宅を見舞う	六六
二二〇	十月八日	公方様御直裁と申す姿の由	六六
二二一	十月九日	荒木玄蕃の留守宅を見舞う	六七
二二二	十月十三日	仙石富太郎の内緒書き上げを手伝う	六七
二二三	十月十五日	殿様の読書三昧はいらぬことと 甚助語る	六七
二二四	十月二十九日	宮津藩、出石家中との文通を禁ずる	六七
二二五	十一月七日	仙石家内紛、將軍熟知の背景	六八
二二六	十二月二十七日	出石藩領が半知となった経緯	六八
二二七	大晦日	良蔵の左京・甚助に対する述懐	六九
	(2) 天保七年(六一歳)		
二二八	正月六日	良蔵、仙石久道の病室を悔やむ	七
二二九	正月七日	瀨兵衛にまつわる奇怪事	七
二三〇	正月十七日	脇坂侯は軽く相済候様の思召のところ	七
二三一	正月十八日	領民騒擾のなかつたことが改易を救う	七
二三二	正月二十一日	田中八左衛門、山田父子を預かる	七
二三三	正月二十七日	深夜掘新九郎来り、良蔵に魚羹 を贈る	七
二三四	四月八日	虚無僧寺三派の類別を聞く	七
二三五	五月五日	五月三日の降雹被害を聞く	七
二三六	五月二十七日	正順和尚、杉原官兵衛の苦悶を語る	七
二三七	六月七日	瀨兵衛は真忠・実忠を存候ものには無 之	七
二三八	六月十九日	草川三右衛門、脇坂侯の労をたたえる	七
二三九	六月二十日	出府の頭庄屋らへ貞恭院酒料を贈る	七
二四〇	六月二十一日	出府の頭庄屋ら嘆願の模様を語る	七
二四一	六月二十六日	米値段高騰、伊府村で騒擾	七

細目次

一四	七月二日	玄蕃らの七度目の辞退は相ならず	六八
一四	七月十六日	松平康任、密貿易の嫌疑を受ける	六九
一四	九月十五日	出石藩三万石は出石郡・養父郡にて	七〇
一四	十月二十八日	一太郎、御目付格勘定奉行	七〇
一四	十一月六日	荒木玄蕃を訪ねる	七〇
一四	十一月十二日	玄蕃を訪ね忠告を進ずる	七〇
一四	十一月二十九日	上ヶ地引き渡しは葬礼を出す思い	七一
一四	十二月十六日	一太郎へ宛て、門に張り紙	七一
一四	十二月二十八日	玄蕃、一太郎借銀の功を称賛	七二
(3) 天保八年(六二歳)			
一五	正月元旦	玄蕃宅へ年礼	七二
一五	正月二日	一太郎、大坂より帰着	七三
一五	二月二十六日	大塩平八郎の乱起こるの報	七三
一五	二月二十七日	在坂中の一太郎無事	七三
一五	二月二十八日	出入銀主皆無事	七四
一五	三月二十一日	豊岡藩、粥施行	七四
一五	五月二十五日	君公、人の好き嫌い遊ばされぬ由	七四
一五	六月九日	玄蕃へ忠告、決断遅し	七五
一五	六月十二日	出府嘆願の頭庄屋二人来訪	七五
一六	十月十五日	一太郎、御役目御免	七六
一六	十月二十五日	養父市場村に太閤時代の制札	七六
写しあり			
一六	十月三十日	清兵衛は諸事カイナイト申す人	七六

4 晩年の暗転、再び浮上した老大大先生

一三	十一月四日	玄蕃来訪	七六
一四	十一月十八日	清兵衛来訪	七七
(1) 天保九年(六三歳)			
一五	二月十九日	良藏隠居、一太郎家督二〇石	七八
一六	三月二十三日	一太郎、勘定奉行加わりの命を辞退	七八
一六	三月二十六日	玄蕃来訪	七八
一六	三月二十七日	一太郎、勘定奉行御請け	七八
一六	閏四月一日	一太郎御用召	七八
一六	閏四月三日	一太郎急ぎ上京	七八
一七	九月二十三日	河合内人、森井彦助の消息を語る	七八
一七	十月二十日	一太郎言う、新宮涼庭は豪傑なり	七八
(2) 天保十年(六四歳)			
一七	二月二十四日	良藏、旅行に出発	七八
一七	五月七日	仙石主計死去	七八
一七	七月七日	玄蕃、近來殊のほか評判悪く忠告	七八
一七	七月晦日	玄蕃、年寄役罷免	七八
一七	十月二十二日	一太郎と密話、驚却のこと	七八
一七	十一月十二日	君公日常生活の一端、側用人の談	七八
一七	十一月二十二日	危邦・乱邦戦兢の時節到来	七八
一八	十一月二十三日	君公日常生活の一端、広間番の談	七八
(3) 弘化四年(七二歳)			

一八	正月十日 城下にて銀札受け取り申さず、他領は尚更……………	九三
一九	正月十四日 義倉札開日……………	九四
二〇	正月二十一日 銀札引き替え延日の触れ……………	九四
二一	正月二十五日 一太郎、金子才覚に奮闘……………	九四
二二	二月五日 義倉は落城に及ばず……………	九四
二三	五月二日 関口齡助辭世の漢詩……………	九四
二四	五月二十五日 君公に進講……………	九五
二五	五月二十七日 弘道館にて進講、多田弥太郎ら輪講……………	九六
二六	五月二十八日 聴衆の有無に拘らず、義倉講釈は継続……………	九七
二七	七月朔日 一太郎、加恩拾石……………	九七
二八	八月十二日 義倉銭札不通用、義倉祭事緊縮の件……………	九七
二九	八月二十五日 義倉講釈、当分休業……………	九八
三〇	九月二十九日 君公へ九鬼式部少輔の伝言を伝える……………	九八
三一	(4) 弘化五年(七三歳)	
三二	正月十四日 義倉、御札開……………	九九
三三	正月十五日 義倉講釈再開……………	一〇〇
三四	二月二十四日 一太郎、願いにより勘定奉行御免……………	一〇〇
三五	三月朔日 一太郎隠居、養子宣藏家督九二石……………	一〇〇
三六	三月六日 一太郎、義倉御用により京坂へ出発……………	一〇〇
三七	三月十八日 九鬼侯、伝言の趣意厚く御心懸け願う……………	一〇〇
三八	十一月二日 城内・松縄手の怪事……………	一〇一
三九	十一月四日 作州旧領大庄屋の孫隆太郎来訪……………	一〇三
四〇	十一月九日 隆太郎より祖父の窮状を聞く……………	一〇三
四一	十一月十一日 隆太郎望みの藩借銀返済を取り次ぐ……………	一〇三
四二	十一月十二日 隆太郎作州へ帰る……………	一〇三
四三	十二月二十四日 左京の父仙石三次の人となり……………	一〇四
四四	(5) 嘉永二年(七四歳)	
四五	十月十七日 多田弥太郎、大砲試射……………	一〇五
四六	十一月十二日 一太郎、義倉方出役差し留め……………	一〇五
四七	十二月八日 多田弥太郎、君公より褒美を賜わる……………	一〇五
四八	(6) 嘉永三年(七五歳)	
四九	二月十日 一太郎、面会遠慮御免……………	一〇六
五〇	二月二十四日 聖堂造営時の思い出を語り合う……………	一〇六
五一	十二月十九日 一太郎危篤の報届く……………	一〇七
五二	十二月二十日 一太郎死去の報届く……………	一〇七
五三	十二月二十六日 家中へ村替えの吉報公表……………	一〇七
五四	(7) 嘉永四年(七六歳)	
五五	正月二十五日 外様大名にとっては、村替えは加増のこと……………	一〇八
五六	正月二十六日 村替えについての仙石右馬助の述懐……………	一〇八

二 御用部屋日記

1 減知後の藩体制立て直し

三六	荒木支蕃、剃髪入牢直前に上書を書き置く (天保六年)……………	二〇
三七	岡幸藏、風聞達し書 (天保六年)……………	二四
三八	仙石左京家族名 (天保六年)……………	二五
三九	領内百姓らに、出府嘆願見合わせを命ずる書状 (天保七年)……………	二六
三〇	惣町へ御救米 (天保七年)……………	二六
三一	脇坂安董の消息を報ずる書状 (天保七年)……………	二七
三二	御手離れ阻止を出府嘆願の庄屋・大庄屋たち (天保七年)……………	二七
三三	領民ら脇坂安董へ駕籠訴 (天保七年)……………	二八
三四	領民の見舞品献上願 (天保七年)……………	三〇
三五	見舞品献上謝絶 (天保七年)……………	三三
三六	町人の三御門(追手・東・西)出入り手続き (天保八年)……………	三四
三七	銀札相つづれ申候 (天保八年)……………	三五
三八	減知後の御役高定まる (天保八年)……………	三五
三九	通用三か月期限の銀札を發行 (天保八年)……………	三六
四〇	阿部・中川両侯の後見御免 (天保九年)……………	三六
四一	出奔して荒木支蕃を諫めた米木龍次の書き置き (天保八年)……………	三六
四二	産物会所懸り初め (天保十年)……………	三九
四三	製陶業加入命令 (天保十年)……………	三九
四四	内職あつせん (天保十年)……………	四〇
四五	財政再建方、意見具申を命ずる (天保十年)……………	四一
四六	関口貽助、再登用 (天保十年)……………	四一
四七	勝手方立て直し人事、御直書写 (天保十一年)……………	四二
四八	在籍・離籍希望意見具申を命ずる御直書 (天保十一年)……………	四三
四九	新抱の小頭以下、解雇の御直書 (天保十一年)……………	四三
五〇	関口貽助、札場・産物方懸り (天保十一年)……………	四三
五一	木綿問屋許可 (天保十一年)……………	四三
五二	他所銀札通用停止令 (天保十一年)……………	四三
五三	旧領村々、年賦金上納 (天保十一年)……………	四三
五四	領内大庄屋らによる勝手方融資組編成 (天保十一年)……………	四三
五五	村々庄屋、年貢大庄屋直納を約束 (天保十一年)……………	四三
五六	糸問屋登用 (天保十一年)……………	四三
五七	産物会所再開令 (天保十一年)……………	四三

二四	関口齡助再勤 (天保十一年)……………	一四	(天保十二年)……………	一五
二四	掛屋任命……………	一五		
二五	糸抜買・他領銀札使用者処罰 (天保十一年)……………	一五		
二五	産物会所糸間屋再開、再度申触 (天保十一年)……………	一五		
二五	塩株取り戻し営業再開願 (天保十一年)……………	一五		
二五	他所銀札使用により処罰 (天保十一年)……………	一五		
二五	銀主直納を条件の融資組停止命令 (天保十一年)……………	一五		
二五	関口齡助の不行届、此度は沙汰に及ばず (天保十一年)……………	一六		
二五	納所奉行出郷取り止めを求める願書 (天保十一年)……………	一六		
二五	豊岡札通用は来る大晦日まで (天保十一年)……………	一六		
二五	再雇用の小頭以下 (天保十二年)……………	一五		
二五	友鷺(神谷転)御館入御免 (天保十二年)……………	一五		
二六	桜井一太郎追放 (天保十二年)……………	一五		
二六	玄蕃へ再度返答書提出を求める藩主糾問書 (天保十二年)……………	一五		
二六	荒木玄蕃返答書……………	一五		
二六	荒木帯刀(玄蕃)隠居・蟄居 (天保十二年)……………	一五		
二六	御所替の後、召し抱えの小頭以下残らず御暇 (天保十一年)……………	一五		
二六	解雇の小頭以下のうち、新抱えとなる家筋			
二六	野田恒太夫投訴吟味手続口書 (天保十二年)……………	一五		
二六	酒勾内記三百五拾石 仙石内蔵介千百石 (天保十二年)……………	一五		
二六	出石入封後抱えの侍、無勤郷方住居 (天保十二年)……………	一五		
二六	他領札通用禁止通達 (天保十二年)……………	一五		
2	再び幕府の鉄槌			
二七	阿部・中川両侯、関口齡助強制召し捕りを通告 (天保十四年)……………	一六		
二七	関口齡助遺骸、検死 (天保十四年)……………	一六		
二七	渡辺要人、中川家へ預かり (天保十四年)……………	一六		
二七	関口齡助糾問書 (天保十四年)……………	一六		
二七	関口齡助屋敷、見分届 (天保十四年)……………	一七		
二七	服部弥兵衛に対する申渡書 (天保十四年)……………	一七		
二七	幕府老中、仙石家へ友鷺帰参方を促す (天保十四年)……………	一七		
二七	酒勾内記(清兵衛)に対する糾問書 (天保十四年)……………	一七		
二七	酒勾彦三遺書 (天保十四年)……………	一七		
二七	桜井一太郎・友鷺の消息 (天保十四年)……………	一七		
二七	政変後の人事発令 (天保十四年)……………	一七		

細目次

二八	荒木带刀(玄蕃)蟄居赦免 (天保十四年)……………	一八〇
二九	仙石久利、林大学頭に入門 (天保十四年)……………	一八一
三〇	天保十四年、帰城に当たつての藩主御意 (天保十四年)……………	一八二
三一	中川侯家臣長塩堅蔵、出石到着 (天保十四年)……………	一八三
三二	原司書(敏郎)追放沙汰書 (天保十四年)……………	一八四
三三	森井彦助、家名断絶沙汰書 (天保十四年)……………	一八五
三四	天保十四年、政変処分沙汰書一抄 (天保十四年)……………	一八六
三五	関口程次郎入牢 (天保十四年)……………	一八七
三六	酒勾久太郎、新知百石下される (天保十四年)……………	一八八
三七	長塩堅蔵、逗留中二百石高 (天保十四年)……………	一八九
三八	桜井三郎御館入 (天保十四年)……………	一九〇
三九	渡辺要人、出石藩下屋敷へ引き取る (天保十四年)……………	一九一
四〇	渡辺要人申渡書 (天保十四年)……………	一九二
四一	神谷軫病氣に付、役儀赦免願 (天保十四年)……………	一九三
四二	家禄半減沙汰書 (天保十四年)……………	一九四
四三	関口輪助石碑に関する江戸よりの詰問と返答 (天保十四年)……………	一九五
四四	他所銀札通用禁止令 (天保十四年)……………	一九六
四五	旧出石藩領海岸防禦の内願却下 (天保十五年)……………	一九七
四六	長塩堅蔵帰発 (天保十五年)……………	一九八
四七	渡辺要人、阿部家が貰い請け白河へ護送 (天保十五年)……………	一九九
四八	丹後岩瀧村徳蔵、銀札加印許可 (天保十五年)……………	二〇〇
四九	義倉銭札加印発行願 (天保十五年)……………	二〇一
五〇	義倉再興令 (天保十五年)……………	二〇二
五一	義倉役所完成 (天保十五年)……………	二〇三
五二	義倉役所、藩士らへ貸付開始 (天保十五年)……………	二〇四
五三	銀札引き替え渋滞 (弘化三年)……………	二〇五
五四	松居恒右衛門、義倉新銭札発行 (弘化三年)……………	二〇六
五五	両侯後見御断り、答札口上書 (弘化三年)……………	二〇七
五六	町方・郷方儉約令 (弘化三年)……………	二〇八
五七	勝手方の儀につき、存慮差し出しを命ずる (弘化三年)……………	二〇九
五八	産物会所復活令 (弘化三年)……………	二一〇
五九	領民に対する産物会所復活触書 (弘化三年)……………	二一一
六〇	藩士家族へ内職斡旋 (弘化三年)……………	二一二
六一	封札六十五貫匁御頼 (弘化四年)……………	二一三
六二	京都二商人、義倉銭札加印に加わる (弘化四年)……………	二一四
六三	新銀札発行、旧札追々回収通達 (弘化四年)……………	二一五
六四	産物会所糸間屋再開令 (弘化四年)……………	二一六
六五	拝借願差し控えを命ずる (弘化四年)……………	二一七
六六	江州札、通用停止……………	二一八

三〇	銀札押印枚数報告 (弘化四年)……………	二〇三
三一	古札拾貫匁上納に受け取り……………	二〇四
三二	御役人役高減少令 (弘化五年)……………	二〇五
三三	家中への融資困難を令する (嘉永元年)……………	二〇七
三四	他所銀札通用禁止令 (嘉永二年)……………	二〇七
3 多田弥太郎上訴事件と文久の政変		
三五	元方義倉銭札、半額にて引き替え (嘉永二年)……………	二〇八
三六	山の中の三人、義倉銭札加印仲間 (嘉永二年)……………	二〇八
三七	多田弥太郎、大砲試射願 (嘉永二年)……………	二〇八
三八	元方義倉銭札引き替え休止、以後勘定所扱いに (嘉永二年)……………	二〇九
三九	桜井一棹(太郎)、義倉方出役差し留め (嘉永二年)……………	二〇九
四〇	元方義倉銭札、通用停止 (嘉永二年)……………	二〇九
四一	元方義倉銭札、銀札に統合 (嘉永二年)……………	二一〇
四二	多田弥太郎、銀二枚下される (嘉永二年)……………	二一〇
四三	海岸防禦兵員訓練に関する伺 (嘉永三年)……………	二一〇
四四	義倉銭札鑄屋札引き替え休止 (嘉永三年)……………	二一一
四五	海岸防禦出陣の節、心得 (嘉永三年)……………	二一一
四六	海岸防禦出陣には、成丈け銘々所持の武器を (嘉永三年)……………	二一一
三七	丹組、義倉加印札発行 (嘉永三年)……………	二二三
三八	出石藩領、洪水被害届 (嘉永三年)……………	二二三
三九	出石町内洪水被害状況 (嘉永三年)……………	二二三
四〇	幕府へ提出の出石藩洪水被害届 (嘉永三年)……………	二二三
四一	諸職人并諸商売物値段方支配設置 (嘉永三年)……………	二二四
四二	洪水被害甚大を氣遣う藩主直書 (嘉永三年)……………	二二五
四三	村替への仰せを蒙る (嘉永三年)……………	二二五
四四	村替えにつき、藩主并真田侯直書 (嘉永四年)……………	二二六
四五	村替令違書 (嘉永四年)……………	二二七
四六	村替え明細 (嘉永四年)……………	二二七
四七	一律増石と風紀高揚を促す藩主直書 (嘉永五年)……………	二二九
四八	本年より献上品は山椒から干物背に替える (嘉永五年)……………	二二九
四九	牛博勞鑑札交付願に許可 (嘉永六年)……………	二三三
五〇	陶器職人、作料引き上げを求めて休業するを 叱る (嘉永六年)……………	二三三
五一	西洋流大砲製造着手命令 (嘉永六年)……………	二三三
五二	綱紀肅正を促す藩主の直書 (嘉永六年)……………	二三四
五三	太田彦太夫門下、西洋流大砲試射 (嘉永六年)……………	二三七
五四	西洋流銃筒鑄立 (嘉永六年)……………	二三八
五五	荒木帯刀(玄蕃)、謹慎申し付けられる	

三六一	日本海岸防禦陣備立心得のこと (嘉永六年)……………	三六
三六二	堀新九郎隠居、息子鯉助年寄就任 (嘉永六年)……………	三三
三六三	陣押足並揃につき、家中へ達し (嘉永七年)……………	三三
三六四	村割(地方知行)復活 (嘉永七年)……………	三三
三六五	陣押足並揃の節要綱 (嘉永七年)……………	三三
三六六	海岸防禦出動並に留守組警衛態勢要綱 (嘉永七年)……………	三六
三六七	着到試実施 (嘉永七年)……………	三七
三六八	渡辺要人、出石へ送還 (嘉永七年)……………	三七
三六九	渡辺要人、出石到着後の処置について (嘉永七年)……………	三六
三七〇	行軍試し実施要領 (嘉永七年)……………	三六
三七一	西洋流大筒、製造命令 (嘉永七年)……………	三六
三七二	美含郡よりの狼火試し (嘉永七年)……………	三九
三七三	西洋流大砲、鑄立相済 (嘉永七年)……………	三四
三七四	砲術、新古流修業選択は好みに委す (嘉永七年)……………	三四
三七五	砲術、早打稽古は御家流のこと (嘉永七年)……………	三四
三七六	多田弥太郎行衛、相知れ申さず (嘉永七年)……………	三四
三七七	多田弥太郎、中川侯へ上書 (嘉永七年)……………	三四
三七八	多田弥太郎へ書き付けをもって申し渡す (嘉永七年)……………	三四
三七九	渡辺要人自滅届 (嘉永七年)……………	三五
三八〇	多田弥太郎出奔届 (嘉永七年)……………	三四
三八一	御家流は御家軍法と改称 (嘉永七年)……………	三四
三八二	多田助之允・高橋平五郎へ詰問書 (嘉永七年)……………	三四
三八三	多田弥太郎上訴につき、藩主直書 (嘉永七年)……………	三四
三八四	銭小切手発行 (嘉永七年)……………	三四
三八五	内職幹旋 (安政二年)……………	三四
三八六	松繩手に台場設置 (安政二年)……………	三四
三八七	御意により高嶋流を御家流に (安政二年)……………	三四
三八八	荒木帯刀、謹慎御免 (安政二年)……………	三四
三八九	藩主、高嶋流引き立てを命ずる (安政四年)……………	三四
三九〇	高嶋流訓練実施につき、町方へ申し触れ (安政五年)……………	三四
三九一	銭切手、新切手と引き替え (安政六年)……………	三五
三九二	家中へ養蚕を奨励 (万延二年)……………	三五
三九三	堀笑山・新九郎父子切腹、執政陣処分 (文久二年)……………	三五
三九四	仙石織人ら謹慎御免 (文久二年)……………	三五
三九五	多田弥太郎復位 (文久三年)……………	三五
三九六	他所修業の面々へ扶持下される (文久三年)……………	三五
三九七	英船渡来に関する加藤弘藏内密の書翰 (文久三年)……………	三五
三九八	出石藩、京都警衛場所 (文久三年)……………	三五

四〇	朝廷出動要請に関する情報探索報告書 (文久三年)……………	二五四
四一	加藤弘之、御宛行返上願 (文久三年)……………	二五五
四二	多田弥太郎、海岸筋見分出立願い許可 (文久三年)……………	二五七
四三	中立荒御門、警衛御免 (文久三年)……………	二五七
四四	中条右京よりの書状につき、年寄召集令……………	二五七
四五	三条西季知、多田弥太郎の派遣要請……………	二五八
四六	攘夷祈願大和行幸に関する諸家動向報告……………	二五九
四七	家老の交替要員、上京要請……………	二六〇
四八	藩主に上京態勢準備を促す荒木頼母……………	二六一
四九	弥太郎派遣要請に苦慮する出石執政陣……………	二六一
五〇	八・一八政変を伝える第一報 (文久三年)……………	二六三
五一	八・一八政変を伝える第二報 (文久三年)……………	二六四
五二	堂上下向、多田弥太郎らの消息……………	二六五
五三	多田の上京、仙石家の名折れになるやも……………	二六五
五四	多田弥太郎討留届出書 (元治元年)……………	二六六
五五	年寄・中老ら減知免職、仙石鋭雄謹慎 (元治元年)……………	二六六
4 幕末期、揺れる出石藩政		
四〇	出石藩、鞍馬口・下鴨口警衛 (元治元年)……………	二六六
四一	加藤弘藏、開成所出向許可 (元治元年)……………	二六六
四二	出石領内番所設置令 (元治元年)……………	二六七
四三	京都出張兵員数并合印書付差出書 (元治元年)……………	二六九
四四	警衛分担場所届出 (元治元年)……………	二六九
四五	蛤御門の変につき、番所警備強化 (元治元年)……………	二七〇
四六	久畑村など三か所見張番引き揚げ (元治元年)……………	二七一
四七	竹田町周辺、一揆情況報告 (元治元年)……………	二七一
四八	初午の節、追手門外に御旅所 (元治二年)……………	二七三
四九	仙石恒之助廃嫡、仙石鋭雄養子願 (慶応元年)……………	二七三
五〇	長防処置につき、領内警備強化令と見張番所 (慶応元年)……………	二七四
四一	生糸改につき、幕府達書 (慶応二年)……………	二七六
四二	初午時の城下見廻りは廃止 (慶応二年)……………	二七六
四三	仮番所設置令 (慶応二年)……………	二七七
四四	生糸改め開始令 (慶応二年)……………	二七八
四五	久美浜代官所警衛に派兵 (慶応二年)……………	二七九
四六	大屋市場村、一揆情況報告 (慶応二年)……………	二八〇
四七	西の下谷、一揆情況報告 (慶応二年)……………	二八一
四八	番所見張番、一時休息命令 (慶応二年)……………	二八四
四九	洋銃用いる時は、洋隊象らずしては其功簿し (慶応二年)……………	二八四
四〇	甲冑にかわり軽便服装着用のこと (慶応二年)……………	二八四
四一	銅・青銅の器物献上 (慶応二年)……………	二八五
四二	大砲鑄造のため、銅・唐金類差し出しのこと……………	二八五

四三	銀札切手発行 (慶応二年)……………	二六六
四四	銀札切手継続発行 (慶応三年)……………	二六六
四五	牧牛養育方教導につき、幕府触書 (慶応三年)……………	二六七
四六	仙石銳雄政固、養父久利へ極秘親書を呈上……………	二六七
四七	王政復古令発布に臨み、藩主御意通達 (慶応三年)……………	二九〇
四八	京都留守居、藩主急速の上京を促す (慶応三年)……………	二九〇
四九	鳥羽・伏見の戦い戦況報告 (慶応四年)……………	二九一
五〇	山陰道鎮撫総督、陣所への参陣を要請される (慶応四年)……………	二九五
五一	生野代官所接収を命ぜられる (慶応四年)……………	二九五
五二	鎮撫総督巡国請書提出を命ぜられる (慶応四年)……………	二九六
五三	若殿様帰国願受理される (慶応四年)……………	二九七
五四	鎮撫総督巡国、出石經由計画は取り止め (慶応四年)……………	二九八
五五	鎮撫総督への出石藩使の接待口上 (慶応四年)……………	二九八
五六	久美浜・生野両代官所支配地管轄を命ぜられる (慶応四年)……………	二九八
五七	久美浜・生野両代官所受取方手筈 (慶応四年)……………	三〇一
五八	両代官所支配地、出石藩預かりは沙汰止み……………	三〇一
5 御一新後の出石藩政		
四九	出石藩士足輕・中間までの在籍人数報告 (慶応四年)……………	三〇一
五〇	藩制改革令 (慶応四年)……………	三〇四
五一	御城稻荷正一位神階勸請 (慶応四年)……………	三〇四
五二	御城稻荷神階奉納儀式次第 (慶応四年)……………	三〇五
五三	商法会所設立準備 (慶応四年)……………	三〇六
五四	久美浜県商法会所御用懸り任命 (明治元年)……………	三〇七
五五	鼻緒商人ら棕櫚木千本献上 (明治元年)……………	三〇七
五六	出石藩江戸屋敷、所在地面積報告 (明治元年)……………	三〇八
五七	円山川通船につき、久美浜県通達 (明治二年)……………	三〇八
五八	出石藩発行、川船往来鑑札 (明治二年)……………	三〇九
五九	出石藩商法会所設立 (明治二年)……………	三〇九
六〇	諸株運上廃止 (明治二年)……………	三〇〇
六一	八朔縄引、勝手に賑々敷相催すべきこと (明治三年)……………	三〇〇
六二	毎月五日を定日に市開場を令する (明治三年)……………	三〇〇
六三	村方役人、管内管理手続 (明治三年)……………	三〇一
六四	大郷正以下、正の字を長の字に相改む (明治三年)……………	三〇一
六五	大里長の下吏に伍長設置 (明治三年)……………	三〇二

四六 郡市規則 (明治三年)……………三二
 四七 辰鼓楼落成 (明治四年)……………三二
 四八 支庁名改称 (明治四年)……………三三
 四九 出石藩兵解隊 (明治五年)……………三三

三 村方文書

四〇 八幡宮氏子、伊福辺社氏子を離れるを
 差し止む (天保六年)……………三四
 四一 伊福辺社焼失 (天保四年)……………三五
 四二 伊福辺社再建 (天保十二年)……………三五
 四三 代官、刈畑開發制限を令す (弘化三年)……………三五
 四四 不動院境内の内に、新四国八拾八か所勧請
 (嘉永元年)……………三六
 四五 中村・下村、町分大庄屋支配への統合願
 (嘉永五年)……………三七
 四六 御郡中仕法替えの事 (安政四年)……………三八
 四七 守札所持規則御触書写 (明治五年)……………三〇
 四八 出石藩銀納御立値 (延宝六、慶応元年)……………三三

近現代編

一 近代社会への歩み

- 1 廃藩置県と出石県の発足
 - 一 米切手引揚の儀 (明治四年四月)……………三三八
 - 二 廃藩置県通達 (明治四年七月二十三日条)……………三三〇
 - 三 紙幣引換価位につき布告 (明治四年七月二十七日条)……………三三〇
 - 四 旧知事公へ献金之事 (明治四年八月)……………三三一
 - 五 但馬国を出石県に被仰付候様願出の件 (明治四年八月)……………三三三
 - 六 仙石政固従五位、東京表へ出立 (明治四年八月)……………三三三
- 2 出石県の廃止と豊岡県の発足
 - 七 出石廃県 (明治四年十一月十日条)……………三三三
 - 八 新豊岡県への事務引継 (明治四年十二月)……………三三三

九 豊岡県支庁出石局設置

- (明治四年十二月十二日条)……………三三四
- 一〇 豊岡県出石局廃止 (明治五年二月)……………三三四
- 一一 辰鼓の廃止と復活 (明治五年)……………三三五
- 一二 戸籍編制の儀につき伺 (明治五年四月)……………三三六

3 市校の消長

- 一三 市校の運営 (明治四年)……………三三七
- 一四 市校の廃止 (明治四年十月三日条)……………三三〇

4 明治初期の地方制度

- (1) 大区・小区制
 - 一五 豊岡県の区編制 (明治五年四月)……………三四二
 - 一六 出石町区画取調 (明治五年四月)……………三四二
 - 一七 町役人の改称 (明治五年五月)……………三四三
- (2) 郡区町村編制法による郡と町村
 - 一八 従前副戸長に戸長申付の廻達写 (明治十二年一月十一日)……………三四三
 - 一九 旧大区区长兼務中事務の引継について伺写 (明治十二年)……………三四四
- 二〇 出石気多郡役所開庁通達写 (明治十二年二月九日)……………三四五
- 二一 戸長役場番号と位置の変更……………三四五

	(明治三十三年八月二十三日)	三四五
三	戸長新任通達 (明治三十三年八月二十四日)	三四六
5	旧士族の転職と生計	
三	士族生計調査につき届 (明治十六年十月)	三四七
四	旧出石藩士族生計一覽表 (明治十六年十月)	三四〇
6	第五十五国立銀行関係資料	
三	第五十五国立銀行創立願 (明治十一年)	三四三
三	第五十五国立銀行創立証書 (明治十一年九月)	三四五
三	第五十五国立銀行定款 (明治十一年九月)	三四〇
六	創立時申合規則	三四九
元	第五十五国立銀行資本金増加証書 (明治三十年)	四四九
三	私立銀行營業継続認可書 (明治三十一年)	四四九
三	引継書 (明治三十一年一月一日)	四四三
三	甲子銀行との合併につき監査役意見書 (昭和二年十一月十八日)	四四六
二 明治後期の出石		
1 地方自治制度の確立と立憲政治の進展		
三	第一回出石町議會議事録 (明治二十二年五月)	四三七
四	街区改良を論ず、桜井勉 (明治二十五年)	四三六
三	衆議院議員選挙法違犯事件判決 (明治三十五年八月二十五日)	四三三
三	国村又右衛門翁逝く (明治四十四年七月三十日付)	四三七
三	宇野文右衛門氏逝く (明治四十四年八月二十日付)	四四八
2 日清・日露の兩戦役		
三	出石郡尚武義会小坂村支会規約 (明治三十四年四月改正)	四四八
元	歩兵第二十連隊遼陽戰感狀 (明治三十七年九月二十日)	四四五
四	石田為助、出征日誌(抄)——日露戰爭—— (明治三十七・三十八年)	四四五
四	新井陸軍中将の計 (明治三十九年五月二十九日付)	四四六

3	農業の発展と農村の暮らし	
四三	私立出石郡勸業会室埴村支会の報告——粃種	四三
	塩水撰の効果——(明治二十九年十月)……	
四四	明治三十年室埴村稲作肥料試験田成績	四四
	調査報告書……	四五
四五	農事改良組合規約準則……	四五
四六	牛飼規約書(明治三十二年十二月)……	四六
四七	勤儉条項(明治三十七年二月九日)……	四七
四八	出石郡青年団体の組織(明治三十九年)……	四八
四九	出石青年会事業実施ニ関スル概要	
	(明治三十九年)……	四九
五〇	豊岡付近の洪水(明治四十三年九月)……	五〇
五一	小坂田圃整理碑(大正三年七月)……	五一
4	社会の諸相	
五二	山陰鉄道縦貫線中豊岡線ヲ取ルベキ意見書	
	(明治二十九年二月)……	五二
五三	山陰鉄道縦貫線中豊岡線ヲ取ルベキ意見書	
	——第二——(明治二十九年二月)……	五三
五四	富籤類似所業事件判決	
	(明治三十年九月二十四日)……	五四
五五	官吏侮辱家屋毀壞事件判決	
	……	五五
1	社会生活の近代化と地域発展への夢	
五六	阿瀬川水力電気株式会社と出石町との	
	報償契約書(大正二年六月十八日)……	五六
五七	電気供給に係る覚書(大正二年六月十八日)……	五七
五八	電球取り扱いに係る覚書	
	(大正二年七月二十四日)……	五八
五九	山田・若桜線速成運動	
	(2) 交通同盟会設立趣意書……	五九
六〇	交通同盟会会則(大正十三年)……	六〇
六一	但馬師範学校の誘致	
	(3) 但馬師範学校の設置を請願	
	……	六一
六二	酒屋博士の遺書(明治四十二年七月)……	六二
六三	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	六三
六四	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	六四
六五	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	六五
六六	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	六六
六七	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	六七
六八	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	六八
六九	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	六九
七〇	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七〇
七一	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七一
七二	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七二
七三	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七三
七四	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七四
七五	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七五
七六	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七六
七七	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七七
七八	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七八
七九	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	七九
八〇	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八〇
八一	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八一
八二	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八二
八三	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八三
八四	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八四
八五	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八五
八六	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八六
八七	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八七
八八	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八八
八九	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	八九
九〇	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九〇
九一	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九一
九二	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九二
九三	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九三
九四	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九四
九五	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九五
九六	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九六
九七	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九七
九八	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九八
九九	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	九九
一〇〇	酒屋博士の死(明治四十二年七月)……	一〇〇

	(大正十三年一月二十一日)	五〇六
2	出石鉄道関係資料	
壹	創立趣意書 (大正八年六月十四日)	五〇九
貳	定款	五一〇
参	免許状写 (大正八年六月二十七日)	五一一
肆	命令書写 (大正八年六月二十七日)	五一一
伍	工事竣功の認可 (昭和四年七月十六日)	五一一
六	貨物運輸營業開始の認可 (昭和五年一月十四日)	五一九
七	鐵道省所屬貨車直通運輸の認可 (昭和五年二月十七日)	五二〇
八	出石鐵道補助規程 (昭和五年四月)	五二二
九	出石鐵道補助規程改正規程 (昭和六年九月)	五二二
一〇	出石町の助成 (昭和五年四月一日)	五二二
一一	国の助成 (昭和七年五月四日)	五二二
一二	出石鐵道存置に関する件 (昭和十九年一月四日)	五二三
一三	出石鐵道復旧請願陳情書 (昭和二十一年四月)	五二四
一四	出石鐵道路線復活資材払い下げ願 (昭和二十三年九月十五日)	五二六
一五	請願書 (昭和二十三年九月十五日)	五二七
一六	出石鐵道復活に関する決議	

四 近代出石の文化

	(昭和二十四年二月七日)	五三三
一	一般乗合旅客自動車運送事業の免許確認証	五三三
二	一般貨切旅客自動車運送事業の免許確認証 (昭和二十七年五月九日)	五三三
三	一般路線貨物自動車運送事業の免許確認証 (昭和二十七年四月二十一日)	五三三
四	譲り受けに関する届け出受理書 (昭和二十七年六月二十日)	五三三
1	出石の神仏	
一	神社明細帳	五三四
二	寺院明細帳	五三六
三	神仏取調書類	五三四
2	出石の鶴山	
一	鶴山鶴巢由来書	五三六
3	出石焼関係資料	
一	盈進社絵図目録——抄——(明治九、十年ころ)	五三一
二	陶器積高覚 (明治四年九月)	五三六

五七 鳩鴉小録——抄——（明治十年十二月）……………五七
 五八 規定書（明治十一年五月九日）……………五八
 五九 定約書追加（明治十一年五月）……………五九
 六〇 陶器石掘出願（明治十一年九月一日）……………六〇
 六一 白陶土掘採定約証（明治十四年三月一日）……………六一
 六二 出石焼陶磁器沿革——抄——（昭和七年）……………六二
 六三 出石教学関係碑文
 六四 出石町字碑記（大正元年九月一日）……………六四
 六五 旧出石藩弘道館址碑記（大正元年九月一日）……………六五
 六六 投測軒遺址記（大正九年十月）……………六六

五 昭和前期の出石

1 農業恐慌と農村の経済更生
 (1) 産米改良と自作農創設維持事業の展開
 一〇〇 兵庫県出石郡神美村農会上米組合申合要項
 （昭和五年十月十八日）……………一〇〇
 一〇一 自作農創設維持資金貸付規程
 （昭和三年五月二十九日）……………一〇一
 一〇二 小坂村自作農奨励調査委員会規程
 （昭和三年六月一日）……………一〇二

一〇三 自作農地開墾奨励に関する件
 （昭和十三年五月十八日）……………一〇三
 一〇四 自作農創設に関する農地状況調査書
 ——抄——（昭和二十年五月）……………一〇四
 (2) 小坂村の村内調和
 一〇五 治水に関する覚書（大正十五年三月十八日）……………一〇五
 一〇六 治水に関する申合規約（昭和二年五月十八日）……………一〇六
 (3) 豊岡町外十四ヶ町村治水事務組合の
 成立と業績
 イ 治水事務組合の成立
 一〇七 豊岡町外十四ヶ町村治水事務組合規約
 （大正十二年七月二十三日）……………一〇七
 ロ 円山川改修附帯工事の施行（関係分）
 一〇八 福居用悪水樋管（昭和八年）……………一〇八
 一〇九 向伊豆・福居用水路（昭和七年）……………一〇九
 一一〇 袴狭川樋門（昭和九年）……………一一〇
 一一一 片間樋門（昭和九年）……………一一一
 一一二 宮内用悪水路（昭和十年）……………一一二
 一一三 鳥居用水樋門（昭和十年）……………一一三
 一一四 室ノ台悪水樋門（昭和十年）……………一一四
 一一五 鍛冶屋悪水樋門（昭和十年）……………一一五
 一一六 新田用水樋門（昭和十一年）……………一一六
 一一七 新田用水堰（昭和十一年）……………一一七

二六	見性寺用水路 (昭和十一年)……………	三〇六
二九	長砂悪水樋門 (昭和十二年)……………	三〇八
三〇	鳥居橋 (昭和十年)……………	三〇九
三三	寺内橋 (昭和十二年)……………	三〇九
三三	島橋 (昭和十二年)……………	三〇〇
	(4) 共有山林の分割と整理	
	イ 出石町外二箇村山林組合	
三三	公有林野分割処分件	
	(昭和三年五月二十六日)……………	三〇〇
三四	公有林野分割管理に関する件	
	(昭和三年十月四日)……………	三〇三
三五	組合解散の件 (昭和四年十二月二十八日)……………	三〇三
三六	出石町部落有財産の整理統一	
	(昭和五年十二月十七日)……………	三〇三
三七	出石郡室埴村部落有林野整理統一協定書	
	(昭和八年十二月四日)……………	三〇七
三六	ロ 袴狭外五ヶ部落共有入会山	
	袴狭外五ヶ部落共有入会山分割協定書	
	(昭和十年八月三十日)……………	三〇一
三九	カヤノ谷共有入会山林分割協定書	
	(昭和十年十二月十四日)……………	三〇三
三〇	公有林野処分に関する件	
	(昭和十一年二月二十九日)……………	三〇四
六 戦後の出石		
1 戦後の民主化		
(1) 自治体警察の誕生		
二六	出石町公安委員会の委員の報酬及び	
	費用弁償条例 (昭和二十三年三月二日)……………	三〇七
二九	警察署の位置・名称及び管轄区域に	
	関する条例 (昭和二十三年三月二日)……………	三〇六
三〇	巡查派出所・駐在所並びに立番所の位置・	
	出石郡各町村分郷開拓建設組合規約……………	三〇三
三七	一銭青銅貨幣及び黄銅貨幣回収促進に	
	関する件 (昭和十六年九月十五日)……………	三〇五
三三	室埴村国民貯蓄組合奨励規程	
	(昭和十七年十二月十八日)……………	三〇三
三三	神美村申合条項 (昭和十五年)……………	三〇九
三四	戦時生活基準 (昭和十八年八月)……………	三〇五
三五	出動軍人餉送に関する件	
	(昭和十二年七月二十九日)……………	三〇五
三三	銃後奉公会会則……………	三〇六

	名称及び受持区画に関する条例 (昭和二十三年三月二日)……………	六六
一四	出石町警察職員の任免等に関する条例 (昭和二十三年六月二十九日)……………	六九
一四	出石町警察基本規程 (昭和二十四年十一月二十六日)……………	七〇
	(2) 農地改革 農地一町歩以上の解放者名簿 (昭和三十七年十月)……………	七〇
2	町村合併と新出石町の誕生	
	(1) 町村合併をめぐる紛争	
一四	出石町・室埴村・小坂村・神美村合併促進 協議会規約 (昭和三十年四月)……………	六四
一五	豊岡市長に宛てた神美村長の書翰 (昭和三十一年一月十八日)……………	六六
一六	御依頼書 (昭和三十一年五月四日付)……………	六七
一七	復書 (昭和三十一年五月九日)……………	六八
一八	陳情書——神美村—— (昭和三十一年七月三十一日)……………	六九
一九	豊岡市編入に係る申し入れ書——神美村—— (昭和三十一年十一月七日)……………	六九
二〇	神美村合併決議に係る声明書——豊岡市——……………	七〇
二一	声明書——出石町議会—— (昭和三十一年十一月二十二日)……………	七〇
二二	完全合併奉願書——出石町・室埴村・ 小坂村—— (昭和三十一年二月二日)……………	七〇
二三	檄——出石郡西部四ヶ町村合併推進本部—— (昭和三十一年三月九日)……………	七〇
二四	勸告書(一) (昭和三十一年三月二十日)……………	七〇
二五	豊岡市長に宛てた申し入れ書 ——出石町・室埴村・小坂村—— (昭和三十一年三月二十三日)……………	七〇
二六	合併勸告直後の村状を説明した神美村長の 書翰 (昭和三十一年三月二十四日)……………	七〇
二七	「合併勸告直後の村状を説明した神美村長の 書翰」に対する復書 (昭和三十一年三月二十六日)……………	七〇
二八	兵庫県告示 (昭和三十一年三月三十日)……………	七〇
二九	境界変更に関する争論の解決について (昭和三十一年三月二十六日)……………	七〇
三〇	勸告書(二) (昭和三十一年三月二十九日)……………	七〇
三一	臨時神美村議会会議録 (昭和三十一年三月三十日)……………	七〇
三二	境界変更勸告に係る陳情書 ——出石町・室埴村・小坂村——……………	七〇

一三	(昭和三十三年四月七日)……………	七六
	境界変更の議決無効を訴える陳情書	
	(昭和三十三年四月)……………	七八
一四	昭和三十三年第一回(臨時)神美村議会の 議決の異議の申立書……………	七三
	(2) 新町の発足	
一五	町村合併申請書——抄—— (昭和三十三年六月二十六日)……………	七三
一六	新町建設計画(昭和三十三年八月二十八日)……………	七九

付録

付1	出石町内大字・小字一覧……………	七三
付2	国勢調査にみる人口の推移……………	七二
付3	出石町一般会計歳入・歳出決算額の推移……………	七五
付4	出石町町税決算額の推移……………	七四
付5	斎藤隆夫著『立憲国民之覚醒』……………	七五

補遺 (考古編)

補1	田多地引谷墳墓群……………	(逆丁)
補2	カヤガ谷墳墓群……………	八
補3	入佐山三号墳……………	二

補4	カヤガ谷古墳群……………	一七
補5	篠谷二号墳……………	一四
補6	カヤガ谷横穴……………	一六
補7	袴狭遺跡群……………	三
	(1) 砂入遺跡……………	三
	(2) 田多地小谷遺跡……………	三
	(3) 袴狭遺跡……………	四
	(4) 入佐川遺跡……………	五
	(5) 嶋遺跡……………	五
	(6) 荒木遺跡……………	五
補8	出石城三の丸跡……………	六